

避難誘導・交通規制等訓練

今年度の検証内容 (主要訓練項目等)	教訓事項	改善事項及び 今後の方向性	備考
災害警備本部等設置訓練	・琴浦大山警察署に設置の実働機関共同調整システムを活用し、合同対策協議会全体会議(2県6市TV会議)をモニタリング視聴することで参加	・実働機関共同調整システムを最大限活用できるような取り組み(他機関を入れての活動調整等)を検討する	
オフサイトセンター訓練	・警察本部からの派遣ではなく、琴浦大山警察署から先行派遣させたことで遅滞なく島根OFCでの活動調整等を実施	・今後も継続した訓練を希望する	
避難誘導・交通規制等訓練	・中山農業者トレセンは、周辺道路や敷地内が狭く、実災害時に周辺道路における渋滞等が予想される	・琴浦大山署管内だけでも避難退域時検査会場が3か所設定されており、実災害時に配置が困難と予想されることから幅広に避難退域時検査会場の選定を検討する必要がある	
	・訓練ではスムーズだったが、原子力災害発生時は、相当数の避難車両等により大混乱が予想され、実際にどの程度渋滞するのか想定することが困難であるので、渋滞対策の検証方法に課題がある	・避難経路の渋滞予想箇所の把握、その他問題点・課題を引き続き検討していくとともに、図上訓練等を通じて関係機関の連携強化を図っていく	
その他	・ドローン訓練関係	・被災情報の収集活動訓練の一環として基金で整備されたドローンを活用したい	

避難誘導・交通規制等訓練の概要



現地指揮本部(琴浦大山警察署)の設置



パトカーによる避難バスの先導



ポイント交差点における交通整理



広報・情報伝達訓練の状況
(パチンコ店の電光掲示板を活用)



児童の保護者引渡し訓練時の交通整理



外国語翻訳アプリを活用した支援状況



交通検問所設置状況(ネクスコ管理事務所敷地内)



避難支援ポイント設置・運営訓練

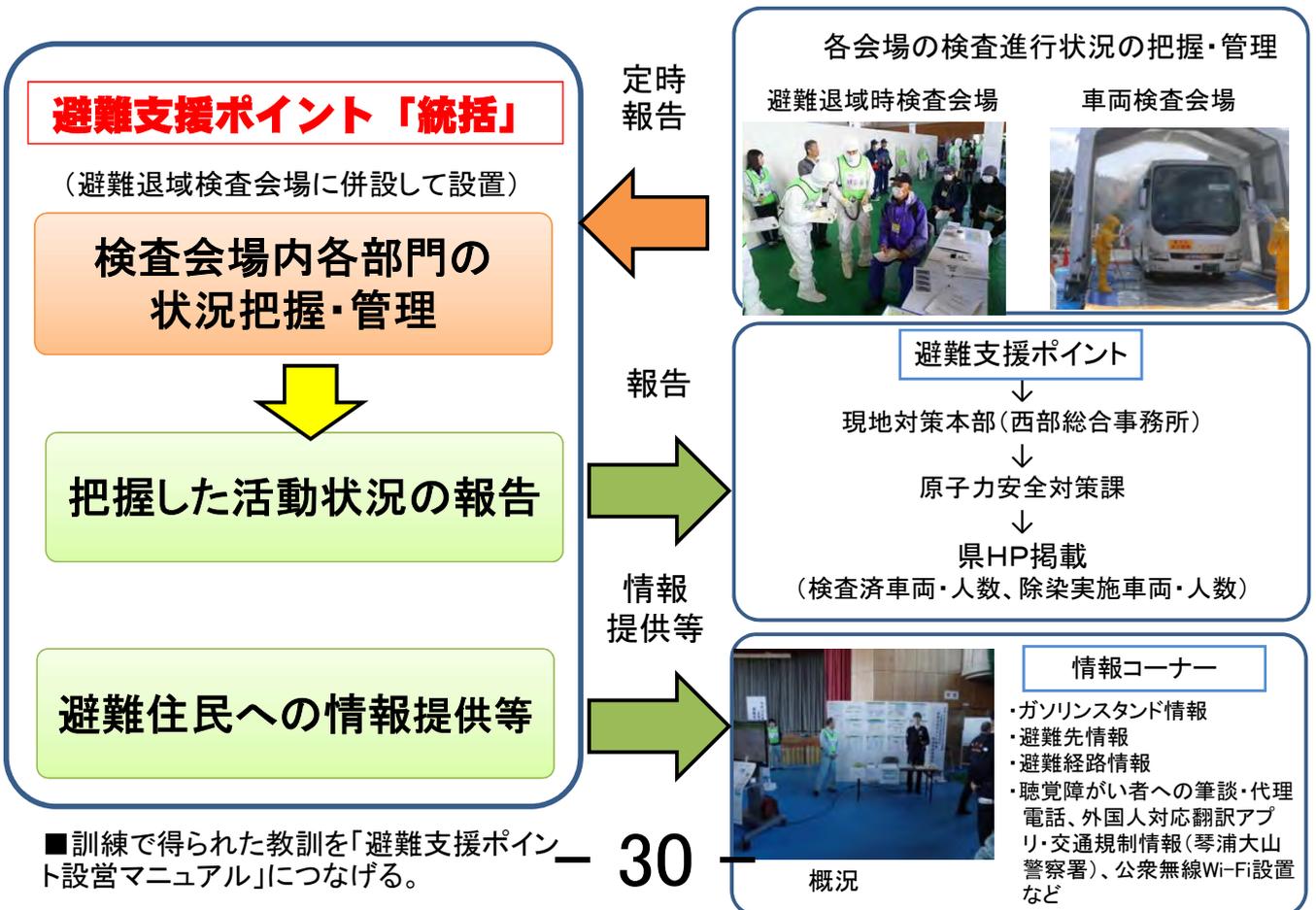
○原子力災害時に、避難住民に対する総合的な支援を行う避難支援ポイントを避難退域時検査会場に併設。

その役割・支援内容(情報収集・伝達・提供)の検証と、ポイントの設置、運営の手順等を確認した。

- 【主要訓練項目】・会場内の各部門の進行状況を把握・管理し、現地災害対策本部(西部総合事務所)へ報告(電話・メール)。
 現地対策本部は、その情報を原安課に伝達。原安課は県HPに訓練進行状況としてリアルタイムで公開。
 ・「情報コーナー」を併設し、住民に有用な情報(避難所先一覧、ガソリンスタンド情報等)等を動的・静的に提供。

今年度の検証内容	教訓事項	改善事項及び今後の方向性
①避難支援ポイントの設置及び運営手順の確認	<ul style="list-style-type: none"> 検査会場内の各部門*と検査状況等の報告や通信手段について情報共有(認識共有)が必要。 住民に対するバス添乗職員による誘導がない場合もあり、会場内進路の分かりやすい表示又は避難支援ポイント統括による誘導が必要。 *各部門:住民検査、車両検査、安定ヨウ素剤配布、空間線量率(屋外)測定 	<ul style="list-style-type: none"> 避難支援ポイント統括の呼び掛けで、検査前に各部門の長を招集し、検査情報の報告・伝達・公表体制及び無線機の使用方法を情報共有(認識共有)する。 検査会場での業務増加も予想されるため、支援ポイント要員の増員も検討する。 訓練で得られた教訓を踏まえ、現場が混乱しないよう避難支援ポイント設置マニュアルの策定につなげる。
②検査会場内や現地本部との連携及び情報収集伝達手順の確認(検査進捗状況の把握・報告・公表の手順の確認)	<ul style="list-style-type: none"> 通信手段の習熟・習知が必要。モバイルPCから、外部接続(notes接続)する場合、PC上に編集したファイルは保存できないため、notes上でファイルを編集保存しメール送信する等の手順の明記・習知が必要。 検査状況報告は、除染完了人数や検査・除染の順番待ち人数、車両数の明記も必要。 各部門との情報共有(報告様式の事前配布等)し、避難支援ポイントから順次問合せを実施すると良い。 	<ul style="list-style-type: none"> マニュアルに情報収集伝達の手順(モバイルPC活用時の手順や無線機の使用法(呼び掛け方、会話の終わり方))を明記する。 「情報集約様式」を改善し、各時点での検査・除染完了人数・車両数や検査順番待ち人数・車両数が把握できるように改善する。 PC立ち上げが間に合わない場合の代替手段を明記・習知する。
③住民への情報提供等(聴覚障がい者への筆談・代理電話、外国人対応翻訳アプリ・交通規制情報(琴浦大山警察署)、公衆無線Wi-Fi設置、避難経路・避難所・GS情報等)	<ul style="list-style-type: none"> 西部県税事務所と県警察本部(琴浦大山警察署)との連携により、概ね順調に住民対応を実施出来た。 	<ul style="list-style-type: none"> 防災上重要な各種拠点施設(GS、避難所、病院等)の最新情報を常に把握しておく。

避難支援ポイント設置・運営訓練の概要



原子力災害医療活動訓練（避難退域時検査）

今年度の検証内容 (主要訓練項目等)	教訓事項	改善事項及び 今後の方向性	備考
避難行動要支援者(聴覚に障がいがある方等)の対応の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・検査を開始する旨の筆談カードがあればより充実 ・避難行動要支援者、外国人について、受付と検査レーンで混乱があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・筆談カードの内容を検討して、さらなる充実を図る。 ・避難行動要支援者、外国人については、配慮が必要であることから、優先受付や専用検査レーンの設置について、検討する。 	
住民や外国人等に分かりやすい情報提供	<ul style="list-style-type: none"> ・検査フロー図の張り出し位置が、待合より前方が見やすい。 ・検査レーン番号が小さくて見にくかった。 ・床の矢印は誘導に有効だった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・会場全体のレイアウトも考慮しながら、見やすい位置を検討する。 ・検査レーンの表記を大きくする。 ・床の矢印は有効なので、もっと目立つ色とする。 	
車両検査との連携の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・車両検査と住民検査の連携が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・車両検査→代表者検査→乗員検査の業務の流れを整理し、次年度には連携訓練を行う。 	
検査等の業務での放射線拡散防止措置の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・タイベックスーツ脱衣時の注意事項の説明が不十分 ・基準をクリアしない人の動線確認業務の事前説明が不十分 ・住民に記名や筆談を依頼する場合の筆記用具の汚染防止対策を検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・タイベックスーツの着脱手順を明確にする。 ・動線確認業務の手順を明確にする。 ・誰が氏名を記入するかについて円滑な業務遂行という観点も含めて検討する。筆談については、拡散防止の手順を検討する。 	

原子力災害医療活動訓練（避難退域時検査）の概要

会場全体の設営状況	受付の様子
	
検査の様子(1)	検査の様子(2) ※車椅子
	

原子力災害医療活動訓練（避難退域時検査）の概要

検査の様子(3) ※筆談カードで聴覚に障がいがある方へ
検査結果伝達



情報提供(検査手順 多言語表示)



※ 本県の実情に合わせて、左より日本語・韓国語・
中国語(簡字体)・英語で表記

動線確認、養生交換作業



訓練による測定結果

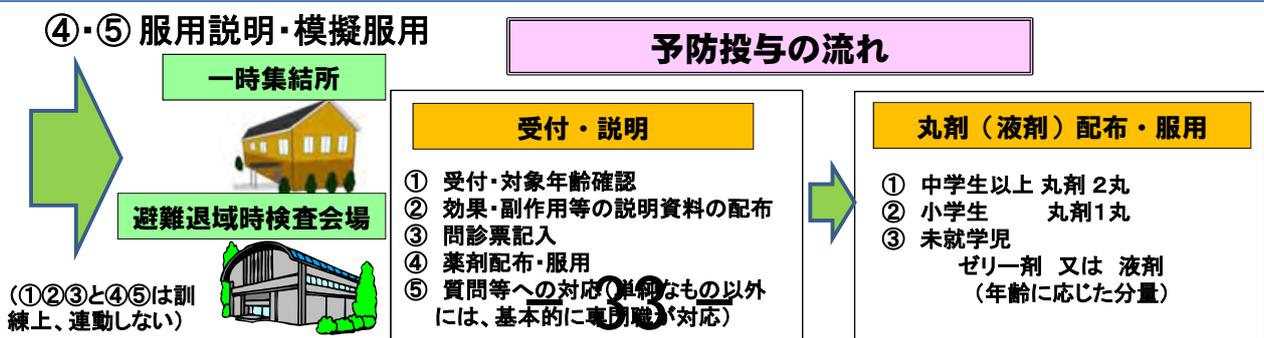
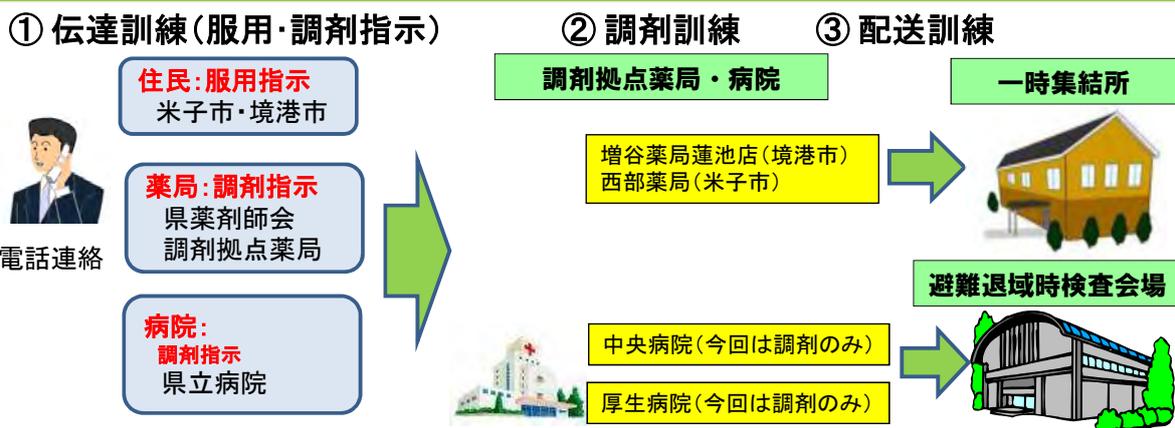
区分	種類	測定値
体験者数	避難退域時検査	184名
	簡易除染	8名
検査時間 (1人当たり)	GMサーベ イメーター	1分36秒 ※H29 1分39秒

原子力災害医療活動訓練（安定ヨウ素剤）

今年度の検証内容 (主要訓練項目等)	教訓事項	改善事項及び 今後の方向性	備考
安定ヨウ素剤の服用指示、調剤指示の伝達	・各機関への指示は伝達系統に従い、支障なく実施できた。	・不測の事態に備え、可能であれば、伝達ラインを、もう1系統設定しておくことも検討する。	
安定ヨウ素剤の調剤、配送	<調剤> ・平時の訓練ではスムーズにできる調剤も、災害時に速やかに調剤ができるか疑問がある。	<調剤> ・3歳以上にもゼリー剤が適用できるよう国に要望する。	
一時集結所、避難退域時検査会場における安定ヨウ素剤の服用説明、模擬服用	・普段服用している薬の情報がなく、ヨウ素剤の慎重服用が必要な者かどうかの現場での判断が難しい。 ・参加者に高齢者が多く若い人が少ない。	・お薬手帳を持って避難に参加していただくなどの方法を検討する。 ・「子ども役」「妊婦役」などを設定する。	

原子力災害医療活動訓練（安定ヨウ素剤）の概要

【訓練内容】 ①伝達訓練（服用・調剤指示の伝達）、②調剤訓練（調剤拠点薬局・病院での調剤）、③配送訓練（調剤拠点薬局等から一時集結所等への配送）、④服用説明・模擬服用（一時集結所）、⑤服用説明・模擬服用（避難退域時検査会場）



原子力災害医療活動訓練（安定ヨウ素剤）の概要

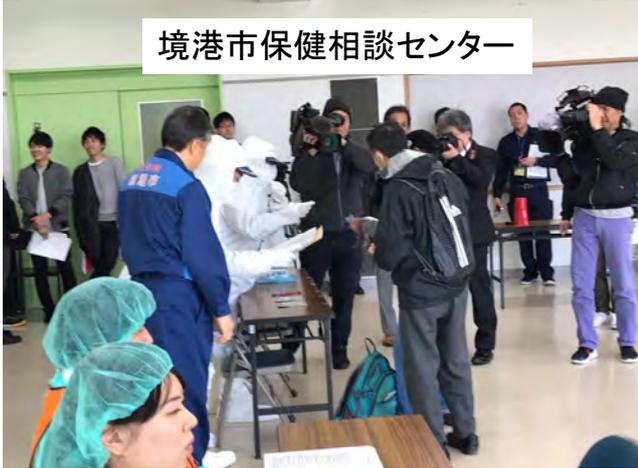
境港市保健相談センター



住吉小学校



境港市保健相談センター



住吉小学校



車両確認検査等訓練

今年度の検証内容 (主要訓練項目等)	教訓事項	改善事項及び 今後の方向性
国が作成した「原子力災害時における避難退域時検査及び簡易除染マニュアル」に基づく車両への汚染検査及び簡易除染手順の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・検査対象者(住民やバスの運転手)に対する検査内容や実施手順の説明が必要。 ・検査要員(動員者)に対して防護措置に関する教育の機会(機器操作や防護服着脱等)が必要。 ・検査記録票について一部記載に不明瞭な点があったため内容を整理し改善を行うことが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・訓練用に作成した実施手順書に説明内容や説明者を整理し記載、訓練を通じてこの内容の検証を行う。 ・内閣府の作成したマニュアルの事前配布や原子力防災基礎研修の機会などを通じて教育に努める。 ・記録票の他、各種様式について今回の訓練を踏まえて改善を行い、訓練で検証していく。
県が整備した避難退域時検査用資機材の輸送・展開・運用手順の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・委託業者の支援を受けて円滑かつ短時間に展開ができた。 →今後、長期的には職員が独力ないしその大部分を担う形で各資機材の設営・運用できる環境を整えることが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、訓練等を通じて職員に対する資機材展開・運用に関する教育の機会を設けるとともに、設営手順を記録した動画資料を作成し、初任者でも資機材展開に関するイメージを持ちやすい環境を整備する。
検査会場の運用方法の検証(会場レイアウト・人員体制等)	<ul style="list-style-type: none"> ・訓練上及び実災害時における会場レイアウト、動線について整理・検証を行うとともに、会場設営時の留意点について確認できた。 ・検査、除染が終了した台数について会場総括が把握できる体制を整理することが必要。 ・検査要員の休憩、その際の資機材の仮置き場所等について配慮が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き訓練時の検証を通じて会場設営時に必要となる事項の整理を行う。 ・会場総括に検査記録票が集約できる体制を整える等、総括が検査の進捗を管理できる環境を整える。 ・休憩用の椅子や測定器、記録表等を仮置きするための長机の設置など必要な措置を今後検討する。

車両確認検査等訓練の実施状況



ゲートモニターによる指定箇所検査



指定箇所検査



確認検査で基準値を超えた車両の除染



除染箇所の確認検査